

2025年度「早石修記念海外留学助成」に選出された方々(敬称略)(応募総数88名)

第9回早石修記念海外留学助成審査結果について

今回より、新規に留学に挑戦する研究者を確実に後押しする目的で、国内枠と海外枠(応募時)に分けて審査をしました。また、非常に高い倍率の審査をより公平に行うために、今回より2段階審査方式を取り入れ、第2次審査では各申請課題を同一の6名の審査員が評価しました。全体では88件の応募があり、そのうち国内枠は37件、海外枠は51件でした。それぞれ、9件および10件を第2次審査対象とし、合議審査を経て最終的に以下の方々を採択しました。なお、今回は国内枠で第3位が2名となったため、例外的に国内4名、海外2名の採択となりました。

追記(2024年11月21日):その後、1名より辞退の申し出があったため、最終的に国内3名、海外2名の採択となりました。

追記2(2026年2月17日):村上千明氏より辞退の申し出がありました。

海外留学審査委員会委員長 水島 昇

助成総額:40,000,000円

	採択者氏名	所属機関	研究課題
	おがわ もとゆき 小川 基行	順天堂大学薬学部生体応答情報学	細胞系譜追跡を用いた組織恒常性維持機構の理解
辞退	むらかみ ちあき 村上 千明	国立大学法人千葉大学国際高等研究基幹生体機能化学研究室	ジアシルグリセロールリン酸化分子機構の新機軸—新発見のPLCと膜曲率の影響の評価—
	やぎ まさき 八木 正樹	ハーバード大学、マサチューセッツ総合病院	ヒストン変異誘導マウスを用いたヒストン修飾の生理学的意義の解明
	やながわ きょうすけ 柳川 恭佑	大阪大学大学院医学系研究科遺伝学教室・循環器内科学教室	臓器間コミュニケーションにおける細胞外小胞の役割
	わたむら なおと 綿村 直人	University College London Dementia Research Institute	次世代型マウスモデルを用いた時空間的一細胞解析によるタウオパチー発症機構の解明

所属は応募時(2024年7月26日)現在で表示